１０．　標準的指標例及び代表的教訓（金融）

本レファレンスに記載のモデルと対応する中間サブ目標

モデル名	対応する中間サブ目標
モデル①　資金決済システム整備	Ⅰ-2-B-(ii)-1　銀行間決済ネットワークの整備（ただし、銀行以外のFis（含むノンバンク・証券会社等）との間の決済機能にも注目）
モデル②　プルーデンス政策（マクロ・ミクロ、事前・事後）	Ⅰ-2-B-(i)-4　金融検査・モニタリング（モデル⑤も参照） Ⅰ-2-B-（ⅳ）-1　金融機関リストラクチャリング支援
モデル③　政策金融機関の整備	Ⅰ-2-C-1　特定のセクター振興を目的とする各種公的金融機関の設置 Ⅰ-2-D-2　リスク管理（ALM含む）
モデル④　株式・債券市場の整備	Ⅰ-3-2　株式・債券市場の整備
モデル⑤　中央銀行のキャパシティ・ディベロップメント	Ⅰ-2-B-(i)-4　金融検査・モニタリング（モデル②も参照） Ⅱ-1-1　適切な金融政策の立案・運営を支えるキャパシティ・ディベロップメント

（注１）参考までに、関連する国連SDGグローバル指標、日本政府SDGs実施指針指標、JICA第4期中期計画の指標を青字で追記している。

（注２）国連SDG指標日本語版出所：総務省仮訳　http://www.soumu.go.jp/main_content/000470374.pdf

技術協力プロジェクト／開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓（金融）
モデル①「資金決済システム整備」

開発戦略目標	中間目標	プログラム目標レベルの指標／国連SDG指標等（青字）	中間サブ目標	上位目標・プロジェクト目標と指標例	指標作成の方法・方針	代表的な教訓	事業目標例（プロジェクトのイメージ）	レファレンスプロジェクト
開発戦略目標	協力プログラムが対応する開発課題レベル	相手国政府のセクター・地域開発計画における目標年・指標との関連性	個別のプロジェクトで解決すべき課題レベル	～により （アウトプット） ～を図り （アウトカム） ～に寄与する （インパクト） 指標の例	指標の設定に当たっての考え方、留意点やポイント	当該「中間サブ目標」に対応するプロジェクト実施の際に、必ず活用・反映すべき教訓・リスクを、 1）計画段階 2）マネジメント の視点から記載。		参照すべきグッドプラクティスを有するプロジェクト情報
Ⅰ.金融システムの整備・安定化・効率化	Ⅰ-2-B-(ii)決済システムの整備	【参考】 国連SDG指標： 8.10.1 成人10万人当たりの市中銀行の支店及びATM数 8.10.2 銀行や他の金融機関に口座を持つ、またはモバイルマネーサービスを利用する（15歳以上の）成人の割合 【参考】 日本政府SDGs実施指針指標： SDGsへの貢献を明確化して形成された新規案件の数 【参考】 JICA第4期中期計画の指標： 財政運営及び金融に係る研修実績数	Ⅰ-2-B-(ii)-1銀行間決済ネットワークの整備	（モデル記載案） 業務システム導入に沿った資金・証券決済に必要な法規制・マニュアルが整備されることにより、 （アウトプット） 中央銀行業務ICTシステムが円滑に稼働・維持管理されるための環境が整備されることを図り、 （アウトカム） ●〇国における金融市場が近代化されることに寄与する。 （インパクト） （標準的指標例） 1. 上位目標の指標例 （基本） ①資金・国債にかかる金融商品取引の多様性や回転率（取引高）が向上する。 ②業務システム導入に伴う金融取引のスピードが向上する。 2. プロジェクト目標の指標例 （基本） ①銀行間資金取引のうちX%が業務システムを通じて実施される。 ②国債取引のうちX%が業務システムを通じて実施される。 ③システムエラーの発生に対する対応数及び迅速性が向上する。 ④業務システムが継続的かつ適切に維持管理される（ベンダーとのメンテ契約締結、費用負担額、自社IT技術者の育成/対応専門部署の設置） ⑤「フェイル」の数（**）	（*）取引のスピードが必ずしも正の経済効果を及ぼすとは考えられない（例：プログラム売買等）が、途上国では、スピードも指標になりうる。 （**）システム問題によるフェイルと、マーケットに起因するフェイルを、事業目的に合わせて区分する。		業務システム導入に沿った資金・証券決済に必要な法規制・マニュアルが整備され、業務システムに沿って資金・証券決済を行うための業務システム利用者の能力が強化され、業務システムを適切に企画・運用・維持管理する能力が強化され、業務システム利用者が、IT を適切に活用できるよう必要な知識やスキルを身につけ、ミャンマー中央銀行（CBM）の会計システムが国際標準に沿って近代化されることにより、 中央銀行業務ICT システムが円滑に稼働・維持管理されるための環境が整備されることを図り、 ミャンマーにおける金融市場が近代化されることに寄与する。	20. ミャンマー 資金・証券決済システム近代化プロジェクト（協力期間： 2014 年2 月～2018 年1 月）

技術協力プロジェクト／開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓（金融）
モデル②「ブルーデンス政策（マクロ・ミクロ、事前・事後）」

開発戦略目標	中間目標	プログラム目標レベルの指標/国連SDG指標等（青字）	中間サブ目標	上位目標・プロジェクト目標と指標例	指標作成の方法・方針	代表的な教訓	事業目標例（プロジェクトのイメージ）	レファレンスプロジェクト
開発戦略目標	協力プログラムが対応する開発課題レベル	相手国政府のセクター・地域開発計画における目標年・指標との関連性	個別のプロジェクトで解決すべき課題レベル	～により （アウトプット） ～を図り （アウトカム） ～に寄与する （インパクト） 指標の例	指標の設定に当たっての考え方、留意点やポイント	当該「中間サブ目標」に対応するプロジェクト実施の際に、必ず活用・反映すべき教訓・リスクを、 1）計画段階 2）マネジメント の視点から記載。		参照すべきグッドプラクティスを有するプロジェクト情報
Ⅰ.金融システムの整備・安定化・効率化	Ⅰ-2-B-(i)金融機関規制・制度の整備（プルーデンシャル政策の強化） Ⅰ-2-B-(ⅳ)金融部門再構築	①自己資本比率（自己資本/総資産、自己資産/リスク資産） ②不良債権比率（不良債権/総資産） ③資産査定方法の内容 ④早期警戒体制の有無 ⑤銀行セクターカントリーリスク評価（10段階分類・評価）←⑤については、円借款ベトナム「第1 次経済運営・競争力強化借款」の指標を援用 【参考】 国連SDG指標： 10.5.1 金融健全性指標 【参考】 日本政府SDGs実施指針指標：SDGsへの貢献を明確化して形成された新規案件の数 【参考】 JICA第4期中期計画の指標： 財政運営及び金融に係る研修実績数	Ⅰ-2-B-(i)-4金融検査・モニタリング Ⅰ-2-B-(ⅳ)-1金融機関リストラクチャリング支援	（モデル記載案） ●〇国中央銀行の銀行監督及び検査の機能が強化されることにより、 （アウトプット） 各銀行が各種手続き・基準に依拠した内容にて業務が適正に実施されることを図り、 （アウトカム） ●〇国の銀行セクターの健全性・安定性が向上することに寄与する。 （インパクト） （標準的指標例） 1.上位目標の指標例 （基本） ①国内業務のみの銀行、国際業務も行う銀行等、カテゴリー別に自己資本等を国際基準に合致させる。 ②経営指標（ROE、ROAなどを想定）が改善した金融機関がX%増加する。 （以下の通り、効率性と地域社会への奉仕が向上している適切な金融システムが確立する） ③〇●年時点の平均貸し出し利子率と預金金利との乖離△%が、●〇年までに□%に減少する。（*） ④〇●年現在の商業銀行の資本利益率（ROE）（**） ⑤国内業務のみの銀行、国際業務も行う銀行等、カテゴリー別に自己資本等を国際基準に合致させた数。 2.プロジェクト目標の指標例 （基本） ①個々の銀行の実態を正しく把握し個別の実態に応じた監督を行うための中銀など監督機関の体制がレビューされ、改善される。 ②検査による指摘事項が減少している ③業界全体で不良債権比率が減少する（国の事情に応じ）。 ④中央銀行、その他監督機関の人材が育成される。 （以下の通り、全ての商業銀行が規律ある運営と経営をする（**）） ④戦略目標および経営に関する倫理規範を各行が再定義する。 ⑤責任区分が明確化された組織構造を整備・確立する。 ⑥専門性を具備し、外部および経営幹部から独立したメンバーによって構成される委員会（特別委員会）を設置する。 ⑦商業銀行の特別委員会は専門委員会（リスク・マネジメント委員会、監査委員会、報酬委員会、ならびに指名委員会）を設け、活動はこれらの委員会を通じて行う。 ⑧外部および内部監査による効率的な監査を実施する。 ⑨報酬の支払いトレンドは、各行の戦略目標、モラル規範ならびに検査環境の3項目と関連付けておこなう。 ⑩ガイドラインが整備される（銀行協会、各行別）、研修・セミナーが実施される、など	(*)途上国では一般に両者の乖離が大きいので、指標とすることに一定の合理性あり。他方、それが、過当競争や利潤減少等を通じシステムの安定化に悪影響が出ない範囲であることが必要。 (**)ROEの適正なレベルへの改善や維持について、国毎の事情に合わせ、また銀行の規模や免許の種類に応じて、（必要に応じ）指標を定める (***)すなわち「コンプライアンス強化」という目標の持ち方がよいと理解。この点、日本（邦銀・証券）のコンプライアンス体制は比較的しっかりしているので、この点は強みとなる。		ベトナム国家銀行（State Bank of Vietnam：以下SBV）の銀行監督及び検査の機能が強化され、銀行セクターのリストラクチャリング実施のための条件・制度が整備され、ベトナム資産管理公社（VAMC）の機能が強化されることにより、 金融機関（銀行）の不良債権処理に係る制度、組織、人材等が整備され、金融機関（銀行）の健全性が確保されることを図り、 ベトナムの銀行セクターの健全性が強化され、金融システムの機能及び安定性が向上することに寄与する。 モンゴルの商業銀行のコーポレートガバナンスに対するBOMモンゴル銀行（Bank of Mongolia、「モ」国中央銀行）による効果的な監督の基礎が構築され、モンゴル銀行が商業銀行に対してIT検査を実施することができる仕組み（マニュアル整備も含む）が確立し、モンゴル銀行と商業銀行間をつなぐ経営管理情報システムが整備されることにより、 モンゴルの商業銀行に対するBOMによる効果的な監督の基礎が構築されることを図り、 商業銀行のコーポレートガバナンスが強化されることに寄与する。 オフサイトモニタリング強化プログラム（オフサイトモニタリングの実施・運用体制の強化）が進展し、バーゼルⅠ及びバーゼルⅡのロードマップ実施のための具体的な方策（法令整備含む）が準備され、（研修体制の強化を通して）銀行監督職員の能力が強化されることにより、 銀行監督分野におけるベトナム国家銀行（SBV）の政策実施能力及び機能が強化されることを図り、 金融セクターの安全性と健全性を確保するために必要な銀行監督庁の機能と役割が強化されることに寄与する。	2. ベトナム　国家銀行改革支援プロジェクト（協力期間：2014年 3月～ 2017年 3月） 6. モンゴル 銀行能力向上プロジェクト（協力期間：2007年 10月～ 2012年 2月） 18. ベトナム 銀行監督機能強化プロジェクト（協力期間：2010年 9月～ 2013年 6月）

技術協力プロジェクト／開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓（金融）
モデル③「政策金融機関の整備」

開発戦略目標	中間目標	プログラム目標レベルの指標/国連SDG指標等（青字）	中間サブ目標	上位目標・プロジェクト目標と指標例	指標作成の方法・方針	代表的な教訓	事業目標例（プロジェクトのイメージ）	レファレンスプロジェクト
開発戦略目標	協力プログラムが対応する開発課題レベル	相手国政府のセクター・地域開発計画における目標年・指標との関連性	個別のプロジェクトで解決すべき課題レベル	～により （アウトプット） ～を図り （アウトカム） ～に寄与する （インパクト） 指標の例	指標の設定に当たっての考え方、留意点やポイント	当該「中間サブ目標」に対応するプロジェクト実施の際に、必ず活用・反映すべき教訓・リスクを、 1）計画段階 2）マネジメント の視点から記載。		参照すべきグッドプラクティスを有するプロジェクト情報
Ⅰ.金融システムの整備・安定化・効率化	Ⅰ-2-C 政策金融機関の整備 Ⅰ-2-D 金融仲介機関の組織的能力強化	金融機関の種類 （公的金融機関） ①開発金融機関の有無 ②貿易金融機関の有無 ③中小企業金融機関の有無 ④農村・農業金融機関の有無 ⑤住宅金融機関の有無 ⑥その他の社会政策金融機関の有無 注） ・政策金融の役割を、各セクター（農村、住宅、貿易など）で、市場ベースの民間金融との対比において、明確にすることが必要（肥大化・恒常化を防ぐ）。 ・そのうえで、各公的金融機関の政策目的（質）や融資規模（量）の計画を定める（民営化や時限的な運営（例：５年後には閉鎖）も含む）。 ・上記計画に沿って、各政策金融機関を支援する（質の面や業務規模の面）（技プロ、資金協力）。 【参考】 日本政府SDGs実施指針指標： SDGsへの貢献を明確化して形成された新規案件の数 【参考】 JICA第4期中期計画の指標： 財政運営及び金融に係る研修実績数	Ⅰ-2-C-1 特定のセクター振興を目的とする各種公的金融機関の設置 Ⅰ-2-D-2 リスク管理（ALM含む）	（モデル記載案） 政策金融機関の資金調達とALM（資産・負債総合管理）にかかる知見が強化されることにより、 （アウトプット） 政策金融機関のプロジェクト管理システムおよびリスク管理システムが改善され融資能力が向上することを図り、 （アウトカム） 社会経済開発目的に沿って政策金融機関の投資貸付の持続性が強化されることに寄与する。 （インパクト） （標準的指標例） 1.上位目標の指標例 （基本） ①社会・経済開発計画における政策金融の投融資額の進捗状況 ②政策金融機関の貸付残高（セクター・目的別等で）が年平均で●%から〇%に増加する ③政策金融機関の目的とする政策に対応する部門への貸付けが、残高ベースで●〇%以上になる ④選定された事業の事後評価結果のレーティングが高くなる 2.プロジェクト目標の指標例 （基本） ①政策金融機関の設立目的及び財務的フィージビリティーの観点から、採択された事業数 ②不良債権率の定量的・定性的傾向 ③貸出リスク管理システムが支店レベルに広がる進捗度合（定量的・定性的） ④リスクスコアリングを実施したプロジェクト数及び割合	上位目標・プロジェクト目標 ・ボリュームについては、政策性を発揮するための必要十分な量を一つの判断基準とすべき（指標にならないが、単なる拡大でないという点が肝要） ・あるいは、例えば、政策目標に沿って行われた融資の件数・量というものは考えられる。 ・政策性の追求（例：農村部へのアウトリーチ）と金融機関としての持続性（利益率）のバランス（ディレンマ）、それに伴い必要となる財政支援（政府やドナーからの補助金）については、十分考慮する必要がある。	政府系金融機関の融資制度に関しては、その原資が財政資金となることも考えられるため、そうした場合には財政分野の開発課題との関係を考慮して捉える必要がある。 課題別指針「金融」より	ベトナム開発銀行（Vietnam Development Bank：以下VDB）の政策枠組みがその明確なミッションに基づき、強化され、信用リスク管理能力が向上し、資金調達とALM（資産・負債総合管理）にかかる知見が強化され、人材育成システムが強化されることにより、 開発金融機関としてのVDBの自立的かつ効果的な投資貸付業務が強化されることを図り、 VDBの中長期戦略ならびに社会経済開発目的に沿ってVDBの投資貸付の持続性が強化されることに寄与する。 マレーシア開発インフラ銀行（BPIMB）インフラ金融部門全体のリスク管理システムのキャパシティが強化され、BPIMB プロジェクトリスク評価のノウハウが蓄積・共有化され、BPIMB インフラ金融における人材育成能力が強化され、BPIMB インフラ金融に係る組織改善の能力が高まり、マレーシアのインフラ金融における BPIMB の役割の方向性について理解が深まることにより、 BPIMBのインフラ金融業務におけるプロジェクト管理システムおよびリスク管理システムが改善され融資能力が向上することを図り、 マレーシア、特にBPIMBにおけるインフラ金融に係る能力が強化されることに寄与する。	3. ベトナム ベトナム開発銀行機能強化プロジェクト（協力期間：2008年 9月～ 2012年 3月） 14. マレーシア インフラ金融融資能力向上プロジェクト（協力期間：2004年 5月～ 2005年 10月）

技術協力プロジェクト／開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓（金融）
モデル④「株式・債券市場の整備」

開発戦略目標	中間目標	プログラム目標レベルの指標/国連SDG指標等（青字）	中間サブ目標	上位目標・プロジェクト目標と指標例	指標作成の方法・方針	代表的な教訓	事業目標例（プロジェクトのイメージ）	レファレンスプロジェクト
開発戦略目標	協力プログラム が対応する開発課題レベル	相手国政府の セクター・地域開発計画における目標年・指標との関連性	個別のプロジェクトで解決すべき課題レベル	～により （アウトプット） ～を図り （アウトカム） ～に寄与する （インパクト） 指標の例	指標の設定に 当たっての考え方、留意点やポイント	当該「中間サブ目標」に対応するプロジェクト実施の際に、必ず活用・反映すべき教訓・リスクを、 1）計画段階 2）マネジメント の視点から記載。		参照すべきグッドプラクティスを有するプロジェクト情報
Ⅰ.金融システムの整備・安定化・効率化	Ⅰ-3 金融市場の育成	（株式市場） ①取引所の有無 ②上場株式数・銘柄・株価・時価総額 ③株式公開数 ④外国株式の上場の有無 ⑤流通市場規模 （債券市場） ①発行債券の種類 ②国債・社債等の発行体・発行本数・発行金額・発行金利・発行期間 ③流通市場規模 【参考】 国連SDG指標： 10.5.1 金融健全性指標 【参考】 日本政府SDGs実施指針指標： SDGsへの貢献を明確化して形成された新規案件の数 【参考】 JICA第4期中期計画の指標： 財政運営及び金融に係る研修実績数	Ⅰ-3-2 株式・債券市場の整備	（モデル記載案） 〇●国資本市場において、リスクベースアプローチ監督強化により、 （アウトプット） 自主規制機関による規制・監督能力の強化を通じた資本市場の信頼性強化を図り、 （アウトカム） 新規株式公開（IPO）、上場の活発化に向けた上場環境強化に寄与する。 （インパクト） （標準的指標例） １.上位目標の指標例 （基本） ①GDPに占める資本市場センター金融資産の割合が●ポイント増加する（*）。 ②金融セクターに占める資本市場セクター金融資産の割合が●ポイントに増加する（*）。 ③資本市場における売買高が●●百万ドルから、●●百万ドルに増加する（*）。 ④IPO、上場の申請件数が●●件から、●●件に増加する（*）。 （補助） ①World Economic Forumの”Global Competitiveness Report”（最新版）における”availability of financial services”の指標が●ポイントに増加する。 ②World Economic Forumの”Global Competitiveness Report”（最新版）における”affordability of financial services”の指標が●ポイントに増加する。 ③World Economic Forumの”Global Competitiveness Report”（最新版）における”financing through local equity market”の指標が●ポイントに増加する。 2.プロジェクト目標の指標例 （基本） ①規制・監督能力に係る能力向上が確認される（**）。 ②シンポジウム参加者へのアンケートの結果、資本市場の信頼性に対して評価する意見が●%増加する。 ③World Economic Forumの”Global Competitiveness Report”（最新版）における”regulation of security exchange”の指標が●ポイントに増加する。	（*）但し各指標はマクロ経済状況、市況に大きく左右されるため、これら影響を考慮の上で上位目標の達成有無を判断する必要がある点に留意。 （**）WEFの指標の活用可否要検討。IMF世銀の指標がより望ましいと思料。 （***）具体的な定量・定性指標は、プロジェクト開始初期に予定している資本市場現状レビューの際に設定。	本プロジェクト投入の位置付けは、「公正・効率的・健全な資本市場」の構築に向け、インドネシア政府がオーナーシップを発揮できるよう、技術的に未成熟な分野において、日本の知見を総動員してサポートすることにある。 その点で本プロジェクトは、特に中小企業向け証券市場整備に係る技術支援を通して、資本市場金融機関監督庁に対し、インドネシア資本市場を取り巻く様々な問題の抽出と対処策につき学習する機会を与え、インドネシア側のオーナーシップを助長するプロセスを醸成した点で功績は大きい。 実際、JICA個別専門家の呼びかけで発足した中小企業向け専門新市場創設作業部会も、資本市場金融機関監督庁の自立発展性に大きく寄与する存在となっているい。 今後は、資本市場金融機関監督庁の自立性を促しつつ、より実効性の高い支援をインドネシア側と議論をしていく必要がある。 （右記レファレンスプロジェクト10. より）	モンゴル資本市場において、政策委員会の設置、リスクベースアプローチ監督強化、自主規制機関コンセプトペーパー策定、モンゴル企業の新規株式公開（IPO）・重複上場実現、一般国民の金融知識の向上により、対象機関（FRC、MSE、その他自主規制機関）による規制・監督能力の強化を通じた資本市場の信頼性強化を図り、もってIPO、重複上場の活発化に向けた上場環境強化に寄与するものである。 ホーチミン証券取引所の職員が、上場会社の業績管理、買収・合併・企業分割時の処理、市場監視等について、十分な知識を得ることにより、 証券取引所の職員の知識・能力が向上し、証券取引にかかる手続き等が厳正化・効率化されることを図り、 証券取引所の上場銘柄数・取引量が増加することに寄与する。 1. 企業情報開示 2. 不公正取引規制 3. 新金融商品規制 4. 市場インフラ整備の4項目に関する、資本市場金融機関監督庁の知識が深まると共に、現在の課題の把握、今後の取り組みの方向性について、関係者の認識が共有されることにより、 資本市場金融機関監督庁の組織能力が強化され、資本市場の信頼性の向上を支える規制・監督行政の改善が図られ、 公正・効率的・健全な資本市場が整備されることに寄与する。	21. モンゴル 資本市場規制・監督能力向上プロジェクト（協力期間：2014年 7月～ 2017年 6月） 4. ベトナム 証券取引所機能強化プロジェクト（協力期間：2006年 9月～2007年 3月） 10. インドネシア 資本市場育成プロジェクト（協力期間：2006年 11月～2009年 10月）

技術協力プロジェクト／開発課題別の標準的指標例及び代表的教訓（金融）
モデル⑤　「中央銀行のキャパシティ・ディベロップメント」

開発戦略目標	中間目標	プログラム目標レベルの指標／国連SDG指標等（青字）	中間サブ目標	上位目標・プロジェクト目標と指標例	指標作成の方法・方針	代表的な教訓	事業目標例（プロジェクトのイメージ）	レファレンスプロジェクト
開発戦略目標	協力プログラムが対応する開発課題レベル	相手国政府のセクター・地域開発計画における目標年・指標との関連性	個別のプロジェクトで解決すべき課題レベル	～により （アウトプット） ～を図り （アウトカム） ～に寄与する （インパクト） 指標の例	指標の設定に当たっての考え方、留意点やポイント	当該「中間サブ目標」に対応するプロジェクト実施の際に、必ず活用・反映すべき教訓・リスクを、 1）計画段階 2）マネジメント の視点から記載。		参照すべきグッドプラクティスを有するプロジェクト情報
Ⅰ.金融システムの整備・安定化・効率化	Ⅰ-2-B-(i)金融機関規制・制度の整備（プルーデンシャル政策の強化） Ⅱ-1 中央銀行における金融政策能力向上	【参考】 国連SDG指標： 8.10.1 成人10万人当たりの市中銀行の支店及びATM数 8.10.2 銀行や他の金融機関に口座を持つ、またはモバイルマネーサービスを利用する（15歳以上の）成人の割合 【参考】 日本政府SDGs実施指針指標： SDGsへの貢献を明確化して形成された新規案件の数 【参考】 JICA第4期中期計画の指標: 財政運営及び金融に係る研修実績数	Ⅰ-2-B-(i)-4金融検査・モニタリング Ⅱ-1-1 適切な金融政策の立案・運営を支えるキャパシティ・ディベロップメント	（モデル記載案①） 中央銀行の発券業務近代化、決済システムの健全化・効率化及び銀行監督機能が強化されることにより、 （アウトプット） 中央銀行の中央銀行機能が強化されることを図り、 （アウトカム） 金融システムに対する信認が高まることに寄与する。 （インパクト） （ベトナムの例より） （モデル記載案②） 中央銀行の人材育成、制度整備を支援することにより、 （アウトプット） 金融政策を行う環境の整備（人材、法制度、データ、金融市場等）を図り、 （アウトカム） マクロ経済状況に応じた適切な金融政策を実施することに寄与する。 （インパクト） （標準的指標例） 1．モデル①の上位目標の指標例 （基本） （ベトナムの例より） ①中央銀行に現金オペレーションセンターが設立される ②中央銀行の業務継承計画の現況 1．モデル②の上位目標の指標例 ①金融政策会合の開催数（ｘ回/年） ②金融政策に関する外部への発信・市場との対話（ｘ回/年） ③各種金利、インフレ率、マネーストック等の指標を、安定的なマクロ金融政策の観点から、適正にモニターする （定性的には、財政と並んでマクロ経済安定への質的貢献を評価する） 2.モデル①のプロジェクト目標の指標例 （基本） ①現金オペレーションセンターの概念に対し合意形成がなされる ②コンティンジェンシー活動の導入状況 ③オフサイト監査ガイドラインの活用状況 2. モデル②のプロジェクト目標の指標例 （国に応じて、人材、法制度、データ、金融市場等の整備に関し、可能な限り定量的な指標化を図る。）			ベトナム国家銀行（State Bank of Vietnam：以下SBV）の発券業務近代化計画の実施が促進され、決済システムが健全性、効率性が高まり、銀行監督機能が強化されることにより、SBVの中央銀行機能が強化されることを図り、 金融システムに対する信任が高まることに寄与する。 ベトナム国家銀行（SBV）職員の通貨実務（現金需要予測モデルを含む）に関する基本的な管理能力が強化され、キャッシュセンター・銀行券印刷工場の基本設計、基本要求事項、生産管理モデル等が作成され、キャッシュセンター・銀行券印刷工場建設プロジェクトのプロジェクト監理モデルが作成され、セミナーやワークショップを通じて、キャッシュセンター・銀行券印刷工場の建設に関する方向性・計画について関係者のコンセンサスが形成され、ハイレベル・ミーティングを通じて、中央銀行の各種業務（①金融政策②外国為替政策③調査統計④対外広報など）にかかるノウハウが共有されることにより、 金融インフラの整備に向けて、SBVの実施体制が強化されることを図り、 中央銀行の業務に必要な金融インフラが整備されることに寄与する。 インドネシア中央銀行経済調査・金融政策局の実体経済動向把握能力が向上し、インドネシア中央銀行経済調査・金融政策局の金融政策策定能力が向上することにより、 インドネシア中央銀行で策定／実施される金融政策の水準が向上することを図り、 インドネシアの通貨価値が安定することに寄与する。 ベトナム国家銀行（SBV）職員の通貨実務（現金需要予測モデルを含む）に関する基本的な管理能力が強化され、キャッシュセンター・銀行券印刷工場の基本設計、基本要求事項、生産管理モデル等が作成され、キャッシュセンター・銀行券印刷工場建設プロジェクトのプロジェクト監理モデルが作成され、セミナーやワークショップを通じて、キャッシュセンター・銀行券印刷工場の建設に関する方向性・計画について関係者のコンセンサスが形成され、ハイレベル・ミーティングを通じて、中央銀行の各種業務（①金融政策②外国為替政策③調査統計④対外広報など）にかかるノウハウが共有されることにより、 金融インフラの整備に向けて、SBVの実施体制が強化されることを図り、 中央銀行の業務に必要な金融インフラが整備されることに寄与する。	1. ベトナム ベトナム国家銀行キャパシティ強化プロジェクト（協力期間：2008年8月 ～ 2010年 9月） 19. ベトナム中央銀行機能強化プロジェクト（協力期間：2010年8月 ～ 2011年 8月） 7. インドネシア 金融政策向上プロジェクト（協力期間：　2007年2月～ 2009年3月） 19. ベトナム中央銀行機能強化プロジェクト（協力期間：2010年8月 ～ 2011年 8月）